



学校だより

# はと広場

5月号

平成31年4月26日  
さいたま市立北浦和小学校  
TEL 048-831-2463

## 子どもたちに伝えたい 古典の世界

校長 益子 聡

天皇陛下が4月30日に退位されて平成時代が幕を閉じ、5月1日には皇太子さまが新しく天皇に即位。令和時代が幕を開けます。そんな今、私と子どもたちとの会話は〈北浦和小学校は、いつから「令和」にするのですか？ 校長先生は『万葉集』を読んだことはありますか？〉といった類のやりとりが多くなっています。

### ◆ 日本の詩歌選集 — 『万葉集』から『折々のうた』まで —

日本最古の歌集である『万葉集』は、1200年余り前に編纂され、天皇から農民まで幅広い層の人々の歌が収められています。日本には『万葉集』のほかにも『古今集』や『新古今集』など、古くからの詩歌（特に和歌）の選集がたくさんあります。

この古代から脈々と続く日本の詩歌のエッセンスを、子どもたちにどう伝えていくのか、伝えるにはどうしたらよいのか考えた末、子どもでも読める日本詩歌の決定版としてつくられた本があります。大岡信/著、長谷川權/監修「子ども『折々のうた』100」（小学館）です。北浦和小の図書室の本棚にも置かれています。

著者である詩人の大岡信さんは2年前に亡くなりましたが、大岡さんが遺した大きな仕事に『折々のうた』があります。これは大岡さんが1979年（昭和54年）1月から2007年（平成19年）3月まで、休みの年をはさみながら27年以上にわたり、朝日新聞の一面に毎朝連載した詩歌のコラムです。対象は、短歌や俳句だけではなく、川柳、漢詩、海外の詩など、古今東西の詩歌に及び、毎日一つ選んで短い批評を添えていました。回数でいうと6,700回を上回り、これは最大の詩歌選集、奈良時代の『万葉集』の約4,500首をはるかに超えます。

この『折々のうた』を今の子どもたち、特に小・中学生が読めるようにできないか。大岡さんに同じく読売新聞の詩歌コラム「四季」に毎朝掲載している俳人長谷川權さん監修のもと、『折々のうた』の中から、さらにエッセンスを搾るようにして短歌と俳句を50ずつ選び、子どもにもわかりやすく読めるように工夫をほどこした本が、前出の「子ども『折々のうた』100」です。漢字にはふりがなをふり、難しい言葉には解説がつけられ、短歌と俳句すべて易しい現代語訳を添えて、大体の意味が分かるようになっています。『万葉集』からは、次の短歌をはじめ11首が選ばれています。

いわ たるみ うえの さ へびの も います はる なるにけるかも 志貴 皇子

〈岩を勢いよく流れ落ちる滝、そのそばのワラビが芽を出す春になった。私の人生にももうすぐ春が来るだろう。〉  
『万葉集』巻八の巻頭を飾る。春の名歌として愛されてきた。…

あたら 新しき 年の 始の 初春の 今日 降る雪の いや重け 吉事 大伴 家持

〈今日は新年の初めの日、また春の初めでもある。その今日、降りしきるめでたい雪のように、この一年、よいことがたくさんありますように。〉  
『万葉集』巻二十、巻尾の歌。…万葉集はこの歌をもって全巻の幕を閉じる。…

### ◆ 古典に親しむ 国語の学習

古典に親しむことについて、小学校1・2学年は、昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。3・4学年は、易しい短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、音読や暗唱をしたりすること。ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。5・6学年は、古文や漢文、文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。などをねらいとして、全ての学年の国語教科書に取り上げられています。

4月23日～5月12日は「こども読書週間」、4月15日～5月15日は「北浦和小子ども読書月間」です。改元に伴う万葉集など日本の古典ブームにも乗り、ご家族で子どもの国語教科書を読んだり、図書館や書店に足を運んだりして、古典に親しむ時間を取り、親子のコミュニケーションをさらに深めてみてはいかがでしょうか。